

# タイ軸に南アジア開拓

昭和興産 周辺国でも商機模索

【バンコク＝清川聡】 したアジアにおける事業 昭和興産はタイを基点とし、展開を強化する。インド として商流の開拓を念頭

に、同地域でマーケティング活動を開始。販売・仕入れ双方向の事業創出を狙う。また、タイを中心とした周辺国の「タイ・プラスチック」関連事業も開拓を進める方針で、タイ事業で売上高40億円と

いう中期経営計画で掲げる経営目標の達成に向けて、タイ発のグローバル事業を拡大する。

タイ現地法人の昭和興産タイランドでは、コア

事業の化学品および合成樹脂、さらにエレクトロニクス関連や食品分野など、幅広い商材を扱っている。タイ国内の11カ所に配置する営業倉庫を活用し、日系企業をはじめとする需要家に対して迅速かつ正確な商材の供給を展開しており、昨年までに9期連続増収を続けている。

現在の収益の柱はタイ国内の日系企業向けが大半だが、さらなる成長を目指し新たなビジネスモデルの構築に着手した。その一つがタイを基点とした事業で、合成樹脂など各商材の需要が期待できるインドやスリランカといった南アジア地域に着目し、マーケティング

活動を開始した。ASSET AN(東南アジア諸国連合)市場の双方向における新たな商流を開拓する。

また、ミャンマー、ラオス、カンボジアといった「タイ・プラスチック」の周辺国における事業機会も模索中。タイとの国境付近では経済特区の開発が進んでおり、今後日系企業の進出が見込まれていることから、これら日系企業の進出サポートや商材の提供などを視野に入れる。

タイ国内では非日系企業の開拓も進めている。タイに拠点を持たない日系企業と現地委託製造メーカーとのマッチングを行うOEMビジネスでは、金属右けんなどで年内に新たに複数の案件を成立させる見通しで、今後同ビジネスモデルの応用展開を積極的に進めていく。